令和５年度
高等学校 課題発見・解決学習
推進プロジェクト

学校魅力化 コーディネート力 養成研修

第１回目 実施内容 まとめ編

参加者

広島県内の
県立高等学校の
総合的な探究の時間等に
携わる教員

研修の目的

社会に開かれた
教育課程の実現に向け、
学校内外の人的・物的資源等を活用して、
より効果的に学校の魅力を高めるための
カリキュラム・マネジメントを充実させることができる
教員の資質・能力の育成を図る。

研修の内容

午前の部　講義・演習

「探究的な学びにおける学習評価について」
講師：広島県教育委員会事務局

午後の部　講義・ワークショップ・発表

「学習評価場面での連携先の関わり方について考える」
講師：叡啓大学　川瀬真紀

「外部との関わりしろを探る」
講師：合同会社ひとむすび　山田芳雅

第１回目 研修実績

令和５年
6/29
9:30-16:30
会場：ヒルトン広島
広島市中区富士見町 11-12

主催：広島県教育委員会　共催：Peace&Science Innovation Ecosystem (PSI)
＊広島大学が主幹機関、叡啓大学が共同機関となっているプラットフォーム

第１回目 参加者の声

探究的な学びにおける学習評価について、評価者や評価方法を変えるだけで、生徒の自己肯定感や主体性を高め、次の探究活動へのモチベーションを上げる効果が得られることを実感した。

評価について、他校の様子を聞くことができたのが一番参考になりました。評価者を変えることで新たな視点から評価できるという学びを得ました。

具体的な取組を実際に伺うことができて大変面白かったです。早速管理職に話して、生徒たちにも聞いてもらえるよう検討しています。やはり、探究は「わくわく！」が大事です。

研修翌日に、早速、職員研修を設けて、情報共有をしました。また、次年度にできることがないか協議しました。

専門家のお話を具体的に聴くことができ、指示が的確だったので、短い時間の中でも多くのことを学ぶことができました。

青年会議所や市役所、地域の NPO 等に連絡を取るところからはじめてみたい。まずは協力してもらえる・もらえないは別にして、「こんなところで困っている」ということを伝えてみることから始めたい。

起業家の方の圧倒的なパワーに元気をいただいた。高校生にとっても、普段関わることのできない人と関わることで大いに刺激をもらえると思う。「高校生が社会を変えられるんだ」と実感できる体験をたくさんさせてあげたい。

地域の方々から評価していただく機会ももちろんですが、立場を越えて問いと向き合い、共に考える機会をもてたらなと思っています。

一番印象に残ったのが、研修終了時に、参加者全員が自然に拍手をしたことです。それは充実感からだと思います。悩みも含め本音で話し合いができ、また、多くの実践例から、探究の指導や方向性がイメージしやすく、総合的な探究の時間へ取り組む前向きな心情を持つことができたからだと思います。このような研修を校内でもしたいなあと感じました。今日の研修は代表者だけでなく、全教員にも直接聞いていただきたいです。

Peace&Science Innovation Ecosystem (PSI) とは？

PSI（Peace & Science Innovation Ecosystem）は、広島大学を主幹機関として、叡啓大学・愛媛大学・岡山大学・県立広島大学・島根大学・広島市立大学といった中四国の６大学が共同機関として参画する、計７大学から構成されるプラットフォームです（2023 年 6 月時点）。PSI では、「健康長寿」や「SDGs」を新産業創出により加速するとともに、楽しく・生き生き・自然とともに過ごせる平和な社会（地域版・Well－being）の実現を目指しています。
活動内容としては (1) 起業活動支援プログラムの運営、(2) アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営、(3) 起業環境の整備、(4) 拠点都市のエコシステムの形成・発展の４つがあります。アントレプレナーシップ人材育成プログラムでは、各大学が保有するカリキュラムの相互開放や、自治体・企業と連携した実践的なカリキュラムの提供を実施しています。具体的には、「平和希求プログラム」、「デザイン思考または専門的な知識修得などの相互利用に向けた講師派遣」、「地域の実証フィールドを利用した課題発見・解決型 PBL の手法やノウハウの共有化」、「海外大学とのアントレプレナーシップ教育の提供」などを実施しています。
令和５年度は、文部科学省所管の国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）より支援を受け、高校生等（小学生・中学生・高校生・高等専門学校の学生を含む）を対象としたアントレプレナーシップ教育プログラムを、民間企業・団体と協力しながら開発・運営しています。

主幹機関	広島大学
共同機関	叡啓大学、愛媛大学、岡山大学、県立広島大学、島根大学、広島市立大学
幹事自治体	広島県
協力機関	中四国地域を中心とした産学官金関係機関

企画・発行：広島県教育委員会・Peace ＆ Science Innovation Ecosystem（PSI）　令和 5 年 8 月発行

午前の部

講義・演習

探究的な学びにおける学習評価について

講師：広島県教育委員会事務局

総合的な探究の時間を推進していく先生方の「総合的な探究の時間の評価の仕方が分からない。」という課題意識に向き合い、「生徒の探究が高度化し、自律的に行うための効果的な学習評価の工夫について学び、生徒の探究活動を充実させることができるようになる。」を目標に研修を行いました。研修では、ペアワークによる対話を挟みながら学習評価の在り方や様々な評価方法について講義を行い、共通理解を深めました。演習においては、まず、各学校の「総合的な探究の時間等の年間指導計画」を使って、現在行っている学習評価を整理しました。整理に当たっては、「評価時期」、「評価物」、「評価者」、「評価方法」の４つの視点から分析し、自校の学習評価の傾向を見いだしました。その後、学習評価について分析した単元のうち、「年間を通して中心となる単元」、「評価を行うのに困る単元」など学習評価の改善を図りたい単元を取り上げ、「評価者」を別の評価者へ変更した上で、「評価時期」、「評価物」、「評価方法」をどう変更すれば生徒を次のステップへ導くことができるかということについて考え、生徒が次の学習に進むための学習評価の改善を図ることについて協議しました。

学校魅力化コーディネート力養成研修とは？

広島県教育委員会学びの変革推進部高校教育指導課が「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」の一環として行っている研修です。令和３年度から各学校が定める教育目標の実現を目指して、カリキュラムの開発及び教員の資質・能力の向上を図る取組をすべての県立高等学校で行っています。
教員の資質・能力の向上については、カリキュラム・マネジメントの三側面を意識した研修を行っており、「学校魅力化コーディネート力養成研修」は、その第三の側面「教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。」に焦点を当て、学校の内外リソースの効果的な活用を図ることを意識して研修を実施しています。
本研修は総合的な探究の時間等を推進する教員を対象にして、大学教員等を講師に迎え、年間２回行っています。

Message

講師からのメッセージ

今回の研修では、先生方の活発なペアワークによって探究的な学びにおける学習評価について共通理解を深めることができました。先生方からは、探究的な学びにおける学習評価について「評価者や評価方法を変えるだけで、生徒の自己肯定感や主体性を高め、次の探究活動へのモチベーションを上げる効果が得られることを実感した。」や「評価者や評価方法などを工夫しながら、生徒の次の学びに繋げていくことで、探究が深まることに気づきました。」などの感想をいただきました。また、「どう評価するか、誰に評価してもらうか、いつ評価するか等を含め、次年度の計画を早めに立てていきたい。」といった声もあり、学習評価の見直しの重要性を参加者が感じている様子が伺えました。今後も「チーム魅力化」を合言葉に先生方とともに探究学習の充実に取り組んでいきます。

午後の部

講義・ワークショップ・発表

学習評価場面での連携先の関わり方について考える

講師：叡啓大学　川瀬真紀

今年度の目指す姿は、総合的な探究の時間について、学校内外との連携を図り、協働することとされています。そこで、研修では、参加の先生方に、現時点での探究に関わる「連携」を改めて検討いただきました。連携とは、外部の教育資源の活用であり、保護者、地域住民、研究者、大学院生、専門家、社会人、教育施設、教育団体、企業、非営利法人など、様々なひとや場所へと拡げられます。また連携には様々な特長があります。連携の第一歩を踏み始める１回のみの取組や、共通の教育目標を掲げた中長期での「“肩を組んでの” 教育的なパートナーシップ」を創ることに触れていただきました。外部に関わっていただくことは、授業に「社会的に交流できる構造」を組込む方法の１つとなります。このような外部協力を学習評価の場面で活かすには、生徒のプロジェクトに対して中間地点や最終報告会の場などでフィードバックを行う方法があげられます。生徒の成長に寄与することを目指した、学校内外との教育的なパートナーシップ創りの可能性について考えていただきました。

講義・ワークショップ・発表

外部との関わりしろを探る

講師：合同会社ひとむすび　山田芳雅

このパートでは、「高校の外部の企業や組織と、どのような連携ができるのか？」「どのような評価方法があるのか？」を探りました。先生方には、６名の講師のうち、興味のある３名の講師の方とそれぞれ２０分間、意見交換をしていただきました。普段は関わらない「大学」「民間企業」「地域団体」のそれぞれの視点やリソースを知ることで、今後の探究の授業を組み立てる時のヒントを、先生方に持ち帰っていただけたと思います。当日は、質問が多く飛び交い、それぞれの先生の悩みが少しずつ解決されるとともに、今後の連携の芽が少しずつ出ていました。

ワークショップ　参加講師

一般社団法人まなびのみなと　取釜宏行（勝瀬祐介・芳形和紀）
全国２万人が参加する学びの祭典・高校生マイプロジェクトアワード～全国出場プロジェクトの発表と評価を体験する～

株式会社ジブンノオト　大野圭司
個別最適な学び実証事業～2 極分化の先へ～

ラックス建設株式会社　山田哲矢
地域ぐるみの小学生起業模擬体験

叡啓大学　石川雅紀
学生主体の NPO による、ごみが自然に減る仕組み－NPO 法人ごみじゃぱんの事例－

叡啓大学　水島希
探究型学習における外部リソース利用と学習評価：叡啓大学リベラルアーツ科目「科学技術史」の取り組み紹介

叡啓大学　中島基宏
授業の一環として行うインターンシップ及びボランティア・プログラムにおける受入先との連携と学生の成績評価

Message

講師からのメッセージ

午後の部が終わった後に「今後、外部の方と一緒に活動をやっていこうと具体的な話しができました。」「違う学校の先生方とお話しできて、授業を設計していく上でのヒントをもらえた。」などの言葉をいただきました。いろんな方と繋がることで、少しずつ「総合的な探究的な時間の集団知」が形成され、それが高校生へと還元されていくと感じました。正解のない分野だと思いますが、私自身も学びながら、今後もお手伝いさせていただければ幸いです。

合同会社ひとむすび
山田芳雅

叡啓大学　川瀬真紀

研修に参加いただいた先生方が、活発に意見を交わされている姿が深く印象に残っております。実際に、先生方の周り、高校や地域の資源（リソース）を見出すために「アセット・マッピング」を使っていただきました。可視化したマップから、これまで気づいていない資源、さらに増やしたい資源、まだない資源などを理解いただき、さらに、学校の「外」とのネットワーキングを試していただきました。高校で「アセット・マッピング」を行ってみる、ネットワーキングを通じて、早速つながった企業や大学教員に連絡をされるといった、次のアクションについて考えておられる様子を伺い、研修講師として励まされます。それぞれの高校に合う教育的パートナーシップをどのように創られ、総合的な探究の時間のカリキュラムをデザインされるか、またお聞かせください。